

平成 25 年 1-6 月の水揚げ情報

いわき市小名浜、中之作における平成 25 年 1 月 1 日～6 月 14 日の水揚げ情報(まき網)を掲載いたします。

魚種別月別漁獲量

小名浜機船底曳網、中之作漁協の魚種別日別漁獲量(トン)を下表に示しました。小名浜底曳のマイワシ、サバ類については 18～22 年の 73%、54%となっています。カツオについては小名浜底曳では 7%、中之作では 1%にとどまっています。

なお、小名浜底曳の「その他の魚類」のうち、主な魚種は 17～22 年はコノシロで 25 年はカマスです。

数量 (トン)

水揚げ年月日\魚種	カツオ	ビンナガ	キハダ	メバチ	マイワシ	マアジ	サバ類	その他の魚類	総計
地区合計	149	12	1	2	171	3	435	3	776
17-22年平均*1	2,117	198	73	63	236	1	809	0	
25年/17-22年*2	(7.0)	(6.0)	(0.8)	(3.8)	(72.7)	(425.6)	(53.8)	(7,112.3)	-
小名浜底曳	H25.1	-	-	-	-	3	205	2	210
	H25.2	-	-	-	-	-	71	1	72
	H25.3	-	-	-	-	-	28	-	28
	H25.4	-	-	-	68	-	-	-	68
	H25.5	19	11	1	2	31	-	47	111
	H25.6 *3	130	0	-	-	72	-	85	287
中之作	地区合計	22	1	-	-	-	-	-	23
	17-22年平均*1	1,880	213	49	46	-	-	3	0
	25年/17-22年*2	(1.2)	(0.3)	(0)	(0)	-	-	(0)	(0)
	H25.5	22	1	-	-	-	-	-	23

*1:平成18-22年の1-6月の平均値 *2:*1に対する25年のこれまでの割合 *3:6/1-6/14の合計

魚種別月別漁獲金額

魚種別日別漁獲金額(千円)を下表に示しました。小名浜底曳のマイワシ、サバ類については18～22年の45%、103%となっています。反面、カツオについては小名浜底曳では7%、中之作では1%にとどまっています。

金額（千円、税込）									
水揚年月日\魚種	カツオ	ビンナガ	キハダ	メバチ	マイワシ	マアジ	サバ類	その他の魚類	総計
地区合計	40,361	2,352	160	690	9,498	390	32,795	671	86,917
17-22年平均*1	603,961	44,395	33,524	27,108	20,978	81	31,774	6	
25年/17-22年*2	(6.7)	(5.3)	(0.5)	(2.5)	(45.3)	(483.9)	(103.2)	(11,394.6)	-
小名浜底曳	H25.1	-	-	-	-	390	15,876	423	16,689
	H25.2	-	-	-	-	-	6,096	248	6,344
	H25.3	-	-	-	-	-	2,335	-	2,335
	H25.4	-	-	-	3,457	-	-	-	3,457
	H25.5	8,777	2,286	160	690	8,605	-	3,398	23,915
	H25.6 *3	31,584	67	-	-	4,350	-	5,090	41,092
中之作	地区合計	6,685	119	-	-	-	-	-	6,804
	17-22年平均*1	559,286	48,996	20,918	17,547	-	-	104	8
	25年/17-22年*2	(1.2)	(0.2)	(0)	(0)	-	-	(0)	(0)
	H25.5	6,685	119	-	-	-	-	-	6,804

*1:平成18-22年の1-6月の平均値 *2:*1に対する25年のこれまでの割合 *3:6/1-6/14の合計

(水産資源部)

ヒラメ種苗生産研究を再開しました！

本県栽培事業の再開に向け、水産試験場種苗研究部では本年 3 月 15 日に竣工した種苗研究施設において、ヒラメ種苗生産研究を再開しました。

東日本大震災により大熊町の研究施設、種苗生産に必要とする機材とも使用できなくなったため、試験水槽や飼育資材を始め餌料生物等を一から準備し、山形県からヒラメ受精卵の提供を受け、ようやくの再開となりました。

★ 植物・植物プランクトンの培養



【ナンノ培養】

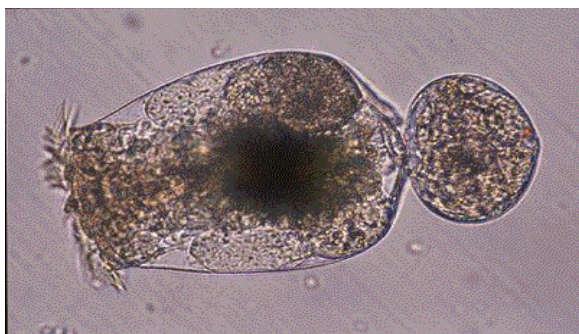
種苗生産に不可欠な植物プランクトン(ナンノクロロプシス・オキュラータ、以下ナンノ)と、動物プランクトン(ワムシ)の培養を 5 月から開始しました。

ワムシはヒラメ仔魚の初期餌料として、ナンノはワムシの餌や、仔魚飼育時の環境を安定させるための飼育海水へ添加用として使用されています。



ワムシは小規模施設で大量に生産するため、純酸素通気による高密度連続培養を実施しています。

気温等の条件に左右されますが、500ℓ 水槽を 2 面使用することで 1 日当たり約 1 億個体のワムシを生産することが可能です。



【ワムシ連続培養(上)と L 型ワムシ(下)】

ワムシは低温耐性の強い L 型ワムシ小浜株を独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所能登島庁舎より入手しました。10℃の低温でも増殖する特徴を持ち、ヒラメのほか、ホシガレイ仔魚の餌料として適しています。

★ ヒラメ仔魚飼育試験



【ヒラメ仔魚飼育試験】



【ヒラメ仔魚の拡大画像:31 日齢】

5 月 28 日に公益財団法人山形県水産振興協会からヒラメ受精卵の提供を受け、仔魚の飼育試験を開始しました。

受精卵 1 万粒を 100ℓ 水槽 10 面に収容し、仔魚がワムシ摂餌に必要とする照度や、初期の飼育環境条件について検討しています。

6 月末日現在、仔魚は全長 15mm ほどに成長しており、一部で着底が始まっています。

今後は全長 80mm まで飼育を継続し、体色異常等について調査します。

(種苗研究部)

福島県水産試験場相馬支場の移転について（お知らせ）

福島県水産試験場相馬支場は、平成 23 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震の津波により、庁舎が損壊するなど甚大な被害を被ったため、福島県農業総合センター浜地域研究所に移転して業務を行ってまいりました。

この度、復旧工事が完了し、平成 25 年 7 月 1 日（月）から震災前同様の下記場所で業務を再開しましたのでお知らせします。また、相馬支場の業務内容等については、水産試験場のホームページで公開しておりますので、併せて、お知らせします。

記

- ・所在地（震災前と同様の場所）

〒976-0022 相馬市尾浜字追川 18 番地の 2

電話：0244-38-6775

FAX：0244-38-6777

- ・参考：水産事務所相馬市駐在も同所で業務再開

電話：0244-38-6091



新しい福島県水産試験場相馬支場（復旧工事の竣工時）
（平成 25 年 6 月 20 日）



東日本大震災大津波による被災後の福島県水産試験場相馬支場
（平成 23 年 3 月）

（相馬支場）

アワビ種苗の放流が再開されました

7月1日に、震災以来中断していたアワビ種苗の放流が3年ぶりにいわき市漁協で行われました。アワビ種苗は、被災した大熊町の公益財団法人福島県栽培漁業協会の施設の代わりに、独立行政法人水産総合センター増養殖研究所南伊豆庁舎で生産されたものです。

6月18日に、福島県栽培漁業協会職員が殻長3cmほどに成長した種苗2万個を水産試験場に搬入しました。翌19日の放流となる予定でしたが、海況が悪い状況が続き、7月1日の放流となりました。当日は江名町支所の採鮑組合員が、付着器に付けられたアワビ種苗を、江名、中之作、永崎、下神白の4海域に放流しました。

◆アワビ種苗の受入れと一時飼育



【アワビの受け入れ】



【アワビ種苗（殻長 3cm）】

アワビ種苗は南伊豆から8時間をかけて保冷車(10℃)で県水産試験場へ持ち込まれました。地先の海水温と温度差があったため、水温馴致の後、FRP水槽内に設置したカゴに収容しました。



【カゴ飼育の様子】

放流が延期となったため、水産試験場内の水槽で1週間ほど給餌飼育をしました。

◆ 付着器への貼付け作業



【作業の様子】



【付着器とアワビ種苗】

1 日の放流に向け、漁協組合員により、付着器への貼り付け作業が行われました。付着器は直径 10cm のエンビ管を二つに割り、約 50cm の長さに切り分けたもので、1 本に 250 個の種苗を付着させることができます。

◆ 放流の様子



下神白採鮑組合



中之作採鮑組合



永崎採鮑組合

漁協組合員が潜水して付着器を海底に固定することで放流しました。

(栽培漁業部、種苗研究部)

福島県沖における魚介類の放射性物質検査結果（平成25年4～6月に採取）

放射性セシウム134、137の合計値 単位：ベクレル/kg

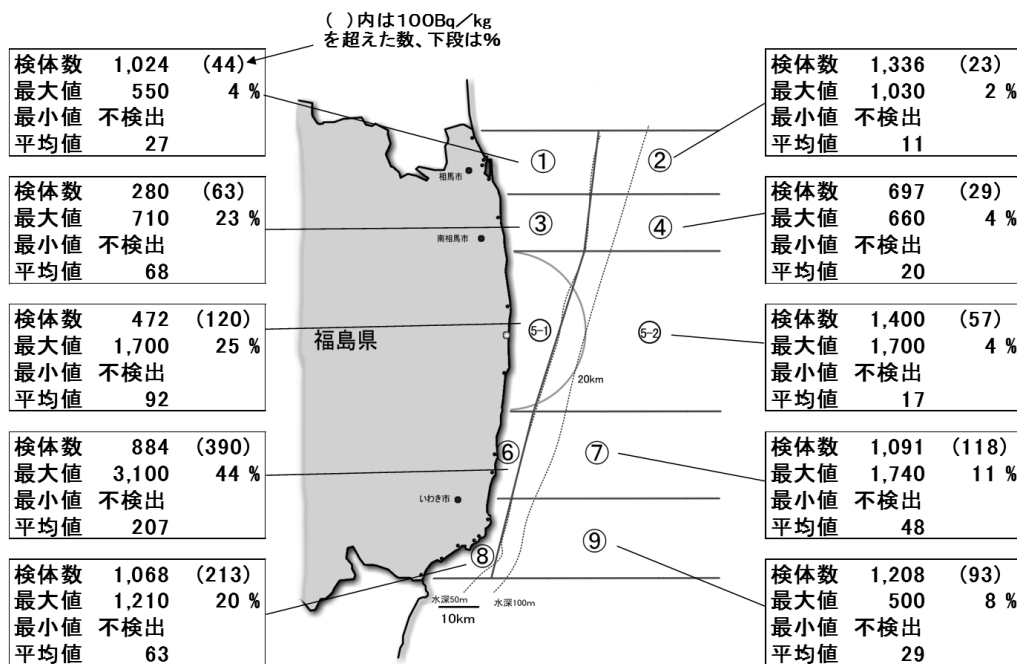
グレー部分は最大が100ベクレル/kgを超えたもの

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超	分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
魚類	アイナメ	1,700	ND	68	96	17	魚類	サクラマス	12	ND	2	7	
	シロメバル	760	26	221	20	16		マダイ	12	ND	4	3	
	スズキ	510	ND	127	18	7		ユメカサゴ	12	ND	1	39	
	コモンカスベ	320	ND	82	56	12		サメガレイ	11	ND	0	62	
	ババガレイ(ナメタガレイ)	320	ND	23	112	6		シログチ	11	ND	2	8	
	キツネメバル	310	ND	62	17	3		サブロウ	9	9	9	1	
	イシガレイ	290	ND	48	37	3		ミギガレイ(ニクモチ)	8	ND	0	58	
	ヌマガレイ	290	11	94	4	1		マトウダイ	7	ND	1	5	
	ウスメバル	280	ND	68	14	4		ソウハチ	7	ND	1	9	
	クロソイ	230	ND	48	21	3		アオメエソ(メヒカリ)	ND			24	
	ヒラメ	210	ND	24	121	3		アブラガレイ	ND			2	
	マダラ	200	ND	20	85	2		アブラツノザメ	ND			6	
	ムラソイ	160	41	78	4	1		イカナゴ	ND			2	
	ホウボウ	150	ND	19	24	1		イトヒキダラ	ND			1	
	マコガレイ	140	ND	23	63	2		ウミタナゴ	ND			1	
	ホシザメ	130	130	130	1	1		ウルメイワシ	ND			3	
	マゴチ	110	12	43	7	1		カタクチワシ	ND			11	
	ケムシカジカ	87	ND	15	42			ギス	ND			7	
	ムシガレイ	74	ND	7	32			キチジ	ND			3	
	マガレイ	69	ND	10	56			コウナゴ	ND			36	
	アカシタビラメ	59	59	59	1			ゴマサバ	ND			1	
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	59	ND	6	57			コモンフグ	ND			1	
	クロダイ	53	32	43	4			シラス	ND			25	
	マアナゴ	52	ND	7	35			セトヌメリ	ND			1	
	ショウサイフグ	51	ND	13	4			チダイ	ND			4	
	アカガレイ	47	ND	4	55			ナガヅカ	ND			1	
	ヤナギムシガレイ	45	ND	3	50			ナガレメイタガレイ	ND			1	
	クロウシノシタ	44	44	44	1			ハマトビウオ	ND			1	
	キアンコウ	38	ND	4	31			ヒレグロ	ND			33	
	メイタガレイ	37	ND	13	13			マアジ	ND			5	
	ニベ	32	ND	11	5			マイワシ	ND			9	
	スケトウダラ	31	ND	1	27			マサバ	ND			6	
	サヨリ	30	ND	2	25			マツカワ	ND			1	
	カナガシラ	25	ND	3	42			マフグ	ND			1	
	イシカワシラウオ	19	ND	2	22			ダツ	ND			1	
	ホシガレイ	14	ND	8	4								

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
イカ類	エゾハリイカ(コウイカ)	ND			3	
	ジンドウイカ	ND			23	
	スルメイカ(マイカ)	ND			9	
	ドスイカ	ND			1	
	ヤリイカ	ND			23	
タコ類	マダコ	ND			6	
	ミズダコ	ND			33	
	ヤナギダコ	ND			61	
甲殻類	ガザミ	ND			1	
	ケガニ	ND			21	
	ヒラツメガニ	ND			7	

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
貝類	アサリ	24	ND	6	4	
	アワビ	ND			23	
	エゾボラモドキ	ND			6	
	コタマガイ	ND			2	
	シライトマキバイ	ND			9	
	チヂミエゾボラ	ND			1	
	ヒメエゾボラ	ND			1	
	ホッキガイ	ND			4	
その他	オキナマコ	ND			13	
	マナマコ	ND			6	
	キタムラサキウニ	15	ND	2	14	
海藻類	ヒトエグサ(アオノリ)(養殖)	21	ND	3	9	
	マツモ	3	3	3	1	
	アラメ	ND			1	
	コンブ	ND			1	
	ヒジキ	ND			1	
	ワカメ	ND			1	

平均値において、NDは0として計算



魚介類のエリア別の検査結果概要 (全魚種 H24.1.1~H25.7.8)

数値は134Csと137Csの合計
平均値においてNDは0として計算

(漁場環境部)

平成 25 年度ヒラメ種苗の放流について

昨年度に引き続き、7月17日と19日にヒラメ種苗の放流が行われました。このヒラメ種苗は、国の補助事業を利用し、公益社団法人新潟県水産振興公社村上事業所で生産されたものです。各日5万尾ずつ合計10万尾を放流しました。

1回目の種苗積み込みと出港場所は松川浦漁港で、2回目は復旧が進み利用可能となった真野川漁港でした。

放流海域は両日とも相馬市磯部沖(水深約7m)を予定していましたが、2回目の真野川漁港出港では時化のため、真野川漁港地先(水深約10m)に変更しました。

1 ヒラメ種苗の積み込み作業



【ヒラメ種苗を積んだトラックの到着】



【ヒラメ種苗の漁船への積み込み】

午後3時過ぎに新潟県からヒラメ種苗を積んだトラックが到着しました(松川浦漁港)。
直径の大きいホースを使用してトラックから漁船のキャンバス水槽へ種苗を移します(写真右)。

2 ヒラメ種苗のサイズ



放流用のヒラメ種苗の全長は約6cmです。

3 放流海域までの輸送



漁船2隻で放流海域まで種苗を輸送しました。放流海域までは約20分ほどですが、酸素量の調整、水温等に気を遣います。

4 放流



キャンバス水槽からたも網を使ってヒラメ種苗を取り出しバケツに移します(写真左)。放流は魚体が傷まないようになるべく水面近くで行います(写真右)。

放流したヒラメ種苗が元気よく潜って行くのを確認しました。

5 追跡調査(第1回調査速報)

7月22日に、調査船拓水のソリネットで放流したヒラメ種苗の採捕調査を行いました。その結果、磯部沖では5尾、真野川沖では4尾採捕されました。

採捕されたヒラメ種苗の摂餌状況を調べたところ、磯部沖の種苗では5尾中4尾で、真野川沖の種苗では4尾ともアミ類(ミツクリハマアミ)を捕食していることが確認されました。

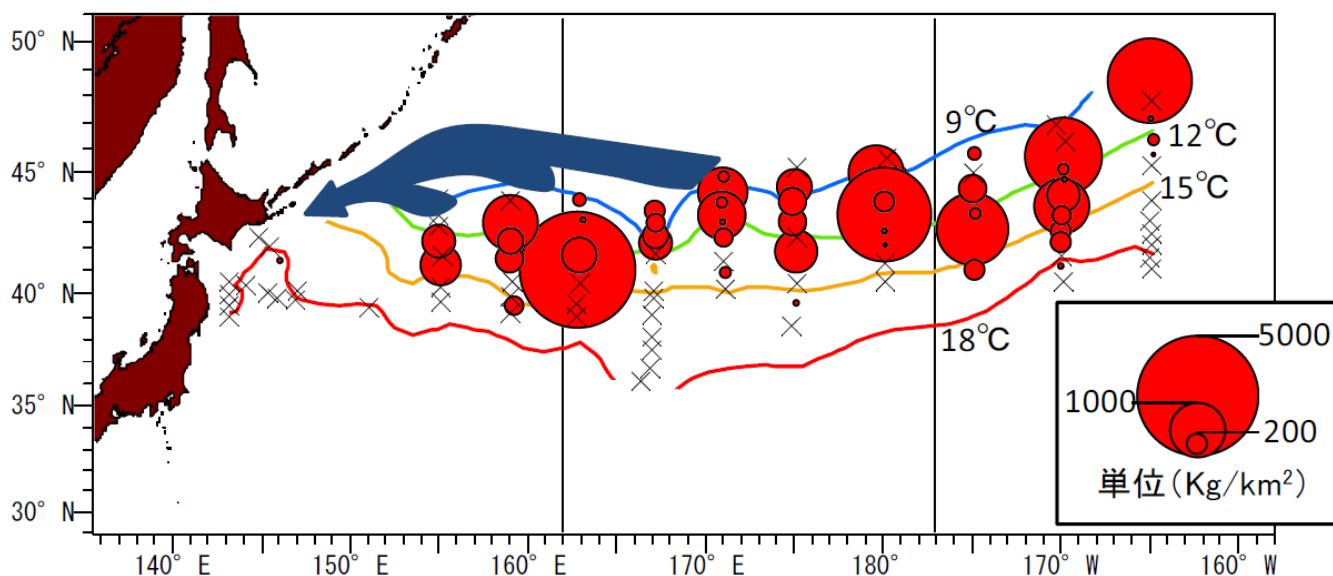
また、これらのヒラメ種苗について、放射性セシウム濃度を測定しましたが、検出されませんでした。

(栽培漁業部、水産資源部)

平成 25 年度 北西太平洋サンマ長期漁海況予報 (抜粋)

7 月 31 日に水産庁、独立行政法人水産総合研究センターより、平成 25 年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

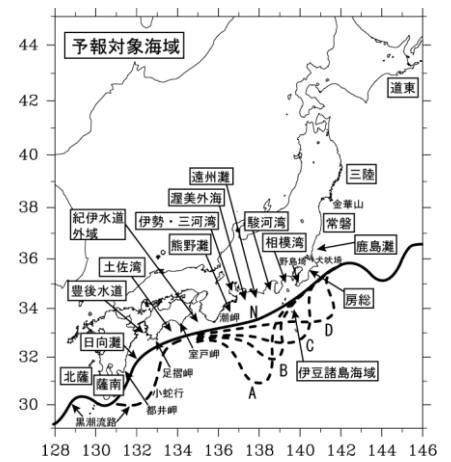
今後の見通し(平成 25 年 8 月～12 月) のポイント	
漁 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚群の来遊が遅れるため 8 月の漁況は低調であるが、9 月には上向く。 ・ 魚体は漁期を通して、前年より大型の割合が高くなる。
海 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親潮第 1 分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で、三陸近海に冷水域が形成される。 ・ 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～極めて弱勢で推移する。 ・ 三陸沖の暖水塊は北上する。



6 月～7 月に行った、漁期前調査の結果と近海への来遊模式図。円の大きさはサンマの漁獲重量、×は漁獲されなかった調査点を示す。漁獲されたサンマは前年より多い。また、サンマは東経 162°以西(1 区)で少なく、東経 162°～西経 177°(2 区)で多い。

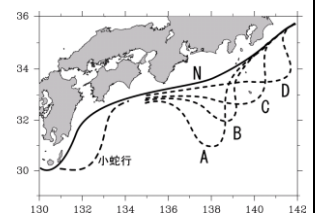
平成 25 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報 (抜粋)

8 月 1 日に水産庁、独立行政法人水産総合研究センターより、平成 25 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。



今後の見通し(平成 25 年 8 月～12 月) のポイント

漁況	魚種	海域, 漁法	来遊量
	マサバ・ゴマサバ	犬吠～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)	マサバとしては前年並～上回る。ゴマサバは前年並。さば類全体としては前年並～上回る。
	マアジ	相模湾(定置網)	低水準ながら前年を上回る
	マイワシ	房総～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)	前年を上回る。
	カタクチイワシ		前年を下回る。
海況	<p>潮岬以東の黒潮は、8 月上旬に B 型、その後 C 型、12 月に B 型となる。鹿島灘～常磐南部海域の沿岸水温は「平年並」～「低め」で推移する。</p> <p>※ B 型: 非大蛇行接岸流路(流路の南端が北緯 32 度以北、33 度以南)</p> <p>C 型: 非大蛇行離岸流路</p> <p>※ 平年並 = 平年値 ± 0.5℃ 程度、高め = 平年値 + 1.5℃ 程度</p> <p>やや高め = 平年値 + 1.0℃ 程度、低め = 平年値 - 1.5℃ 程度</p>		



黒潮流型の分類

(海洋漁業部)

カツオの水揚げ状況（平成 25 年 7 月末現在）

本漁期のカツオ漁況について、7 月末現在の統計速報値をまとめましたので、お知らせします。

表 平成 25 年の福島県属地水揚げ量、金額、単価

	月	小名浜底曳	中之作	合計
重量 トン	5月	19	22	41
	6月	151	30	181
	7月	178	16	194
金額 千円	5月	8,777	7,020	15,796
	6月	36,683	9,323	46,006
	7月	41,116	4,702	45,818
単価 円/kg	5月	467	318	387
	6月	243	315	255
	7月	231	286	236

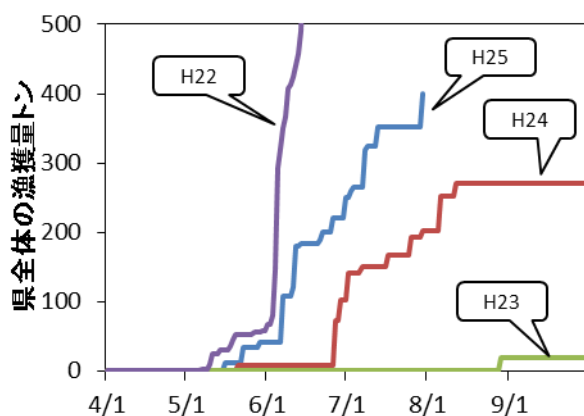


図 1 福島県全体のカツオ累積水揚げ量の年比較

【水揚げ量】

カツオの水揚げは、5/16 に小名浜港、5/23 に中之作港で今期初水揚げがあり、その後も継続しています。

震災前の水揚げ頻度に比べると、極めて低調ではありますが、震災後、水揚げ量は毎年増加する傾向にあります。

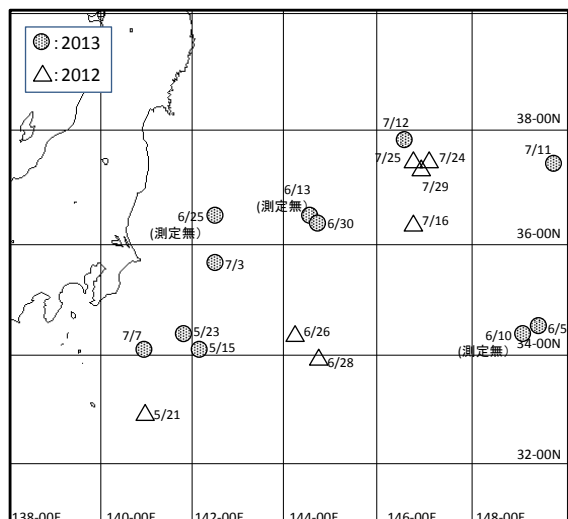


図 2 福島県に水揚げされたカツオの漁獲位置

【漁場の推移】

本漁期は、昨年と比べ、漁場位置が大きく変動する傾向がみられます。

特に昨年の 7 月には、宮城沖付近に漁場が集中していましたが、今年は宮城沖～房総沖まで広く変動していました。

【小名浜港における平均単価の推移】

震災後、原発事故の影響が懸念されました。そこで、平均単価を震災前の平成 22 年と、震災後の平成 24 年・25 年を比較しました。

カツオの単価は、漁獲物の状態(特に漁場の遠近)、全国の漁模様や需給の関係により変動するため、一概に比較することは難しいのですが、震災後の平成 24 年の 5～6 月は、他県に比べ安価でした。しかしその後は、おおむね同水準となっており、今年(平成 25 年)も同水準で継続していると思われます。

他県港参考値・・・銚子港もしくは気仙沼港における同日水揚げ単価速報値・月平均値を用いました。《出典(一般社団法人漁業情報サービスセンターHP「おさかなひろば」)》

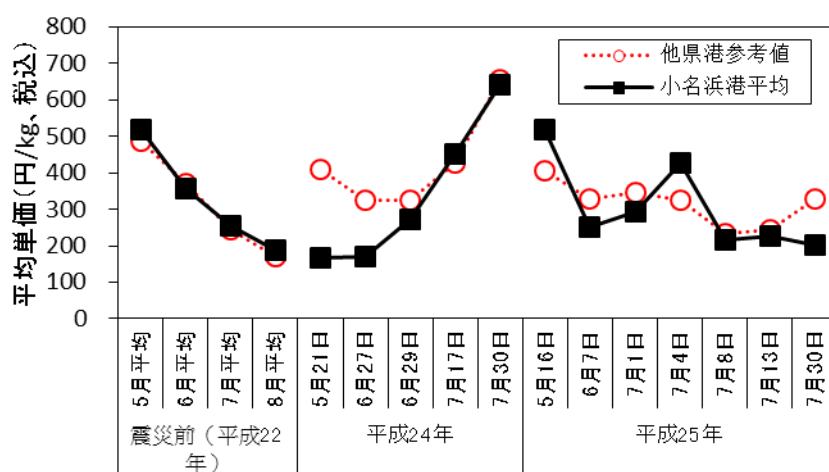
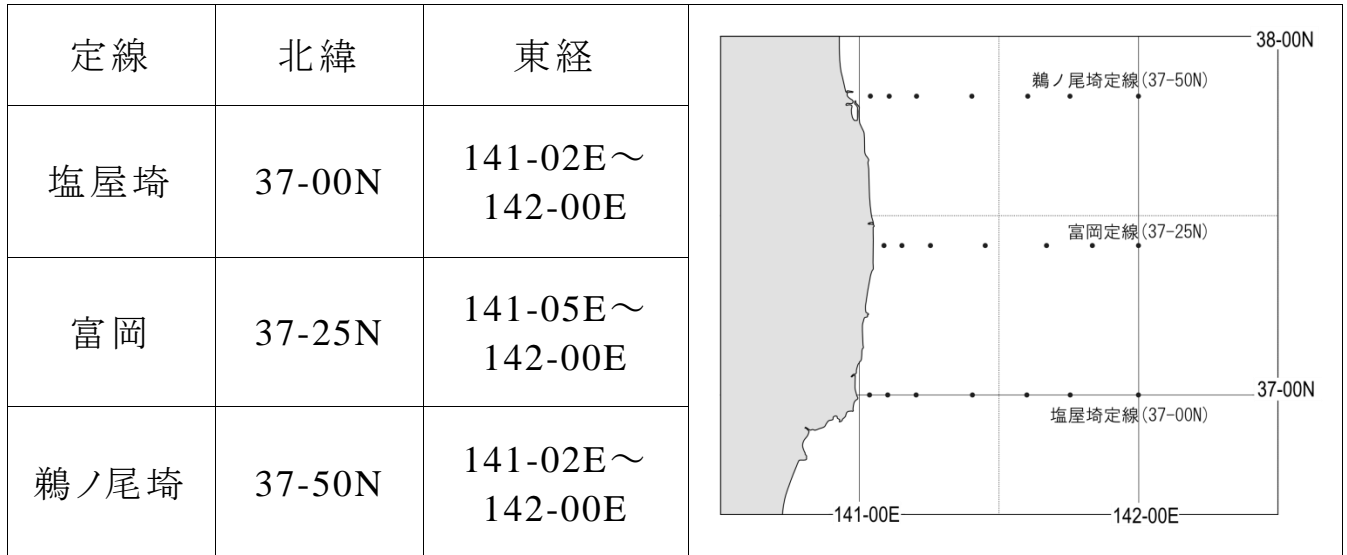


図 3 小名浜港におけるカツオ平均単価の推移

(水産資源部)

平成 25 年 8 月 海洋観測結果

平成 25 年 8 月 1～2 日及び 8～9 日に、漁業調査船「こたか丸」で定線観測を実施しましたので、結果についてお知らせいたします。



1 水温の水平分布 (図 1、2)

表面水温は 19～23℃ 台でした。鵜ノ尾埼の 141-12E～141-36E が 19℃ 台となっていた反面、塩屋埼の 141-12E～141-24E、141-45E～142-00E 及び富岡の 141-05E～141-09E は 23℃ 台となっていました。

100m 深水温は 7～13℃ 台で、沖側に冷水が波及していたことが窺えました。富岡の 142-00E は 7℃ 台、141-40E では 13℃ 台であり、強めの水温勾配となっていました。

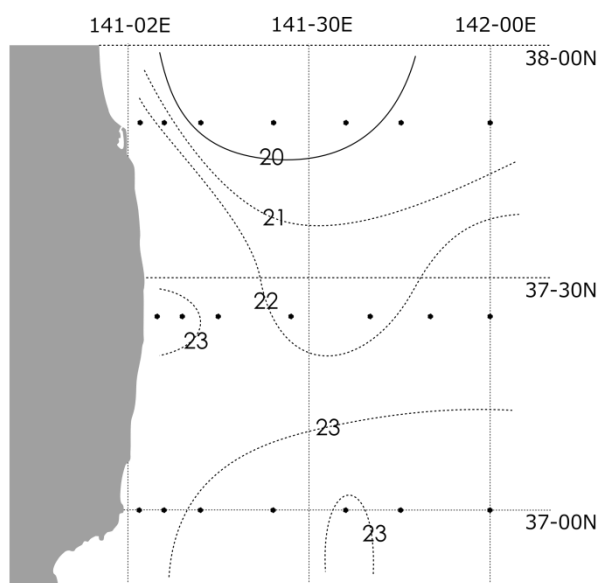


図1 水平水温(表層:℃)

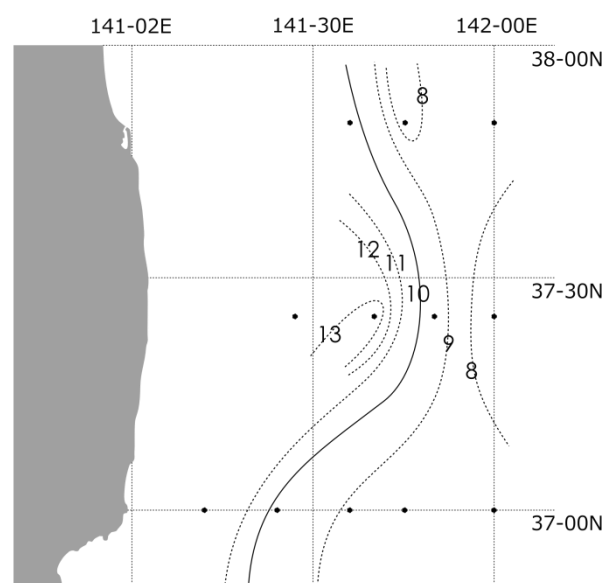


図2 水平水温(100m深:℃)

2 水温の鉛直分布 (図 3～5)

100m 深では塩屋埼で 8～11℃ 台、富岡では 7～12℃ 台、鵜ノ尾埼では 7～10℃ 台、300m～400m では、塩屋埼、富岡は 2～4℃ 台、鵜ノ尾埼は 2～3℃ 台が分布していました。

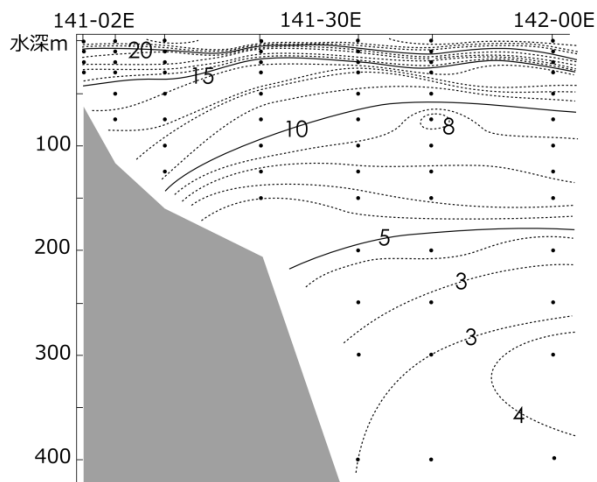


図3 鉛直水温(塩屋埼:℃)

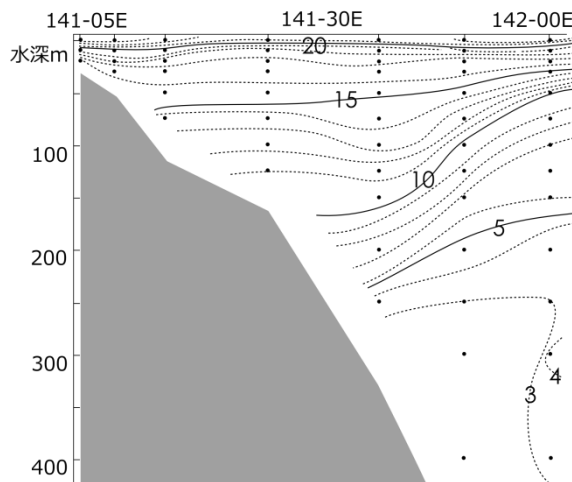


図4 鉛直水温(富岡:℃)

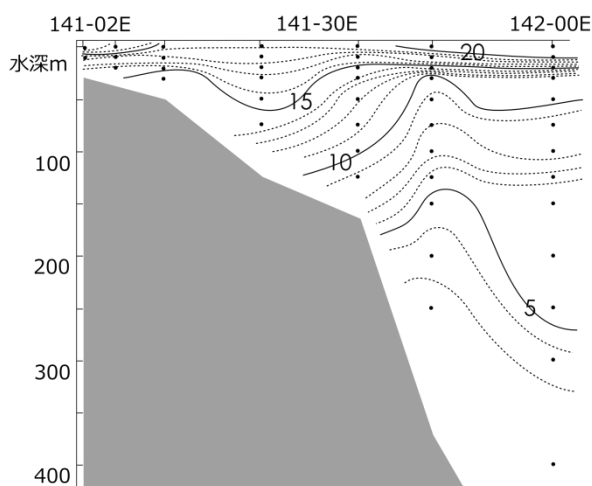


図5 鉛直水温(鵜ノ尾埼:℃)

3 水温の平年差

表面水温、100m 深水温とも、全体で平年並み、塩屋埼、富岡は平年並み、鵜ノ尾埼は平年よりやや低めでした。

4 今後の見通し(1 か月予測)

9 月は海域全体で「平年並み」～「やや低め」になると予想されました*。

*: 従来からの海洋観測結果を用いて主成分分析を行い、ここから得られた海況の変動要因に対して自己回帰分析を行うことで水温を予測した。

(海洋漁業部)

福島県沖における魚介類の放射性物質検査結果（平成25年5～7月に採取）

放射性セシウム134,137の合計値 単位:ベクレル/kg

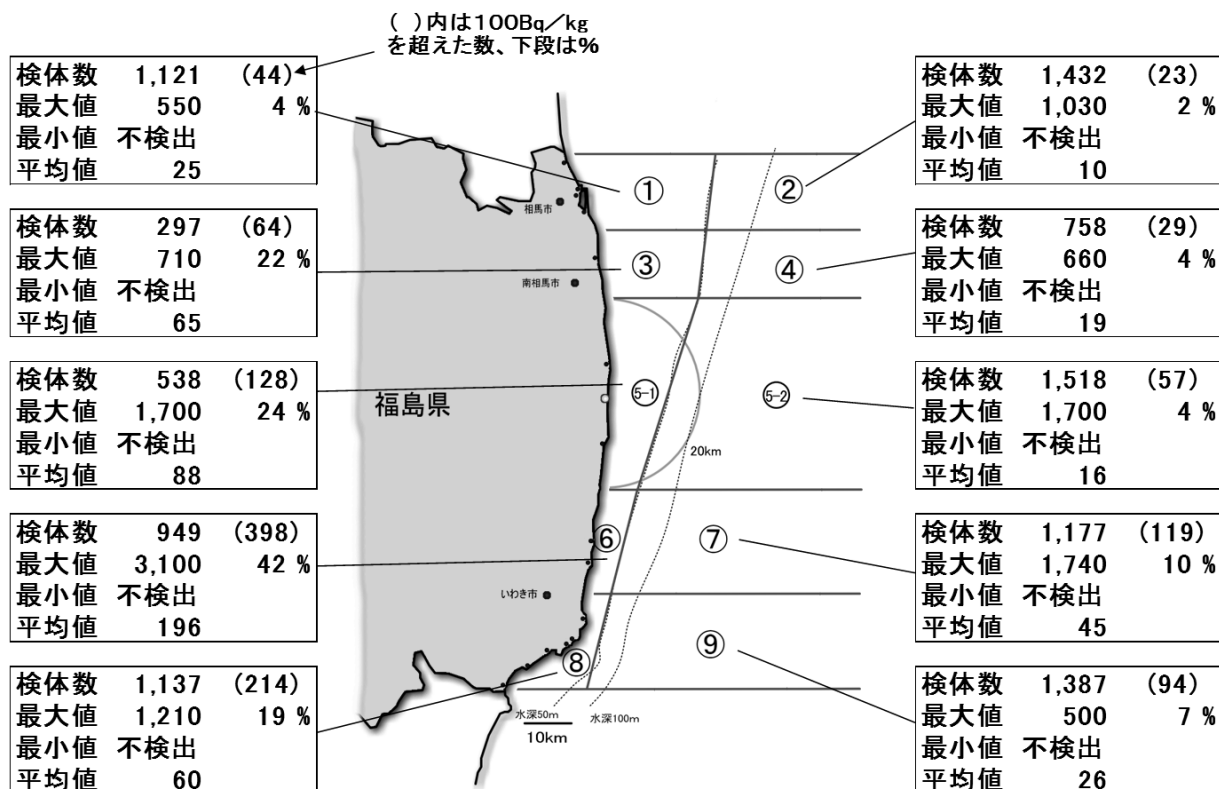
グレー部分は最大が100ベクレル/kgを超えたもの

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超	分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
魚類	スズキ	570	ND	106	13	4	魚類	サクラマス	12	ND	2	7	
	シロメバル	540	ND	163	19	10		ニベ	12	ND	3	6	
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	370	ND	11	61	1		マトウダイ	12	ND	3	9	
	コモンカスベ	320	ND	78	55	12		ユメカサゴ	11	ND	0	37	
	ババガレイ(ナメタガレイ)	320	ND	18	107	5		ホシガレイ	10	ND	6	3	
	キツネメバル	310	ND	54	17	3		イシカワシラウオ	10	ND	5	4	
	イシガレイ	290	ND	31	42	2		サブリウ	9	ND	6	4	
	ヌマガレイ	290	7	93	4	1		ミギガレイ(ニクモチ)	7	ND	0	62	
	ウスメバル	280	ND	49	15	3		ソウハチ	7	ND	1	10	
	アイナメ	250	ND	35	97	8		アオメエソ(メヒカリ)	ND			32	
	クロソイ	230	ND	47	13	2		アカムツ	ND			4	
	マダラ	200	ND	16	71	2		アブラガレイ	ND			1	
	ホウボウ	150	ND	18	23	1		アブラツノザメ	ND			8	
	ヒラメ	140	ND	20	110	2		イカナゴ	ND			2	
	マコガレイ	140	ND	18	61	1		イトヒキダラ	ND			1	
	ホシザメ	130	31	81	2	1		ウミタナゴ	ND			1	
	マゴチ	97	ND	49	7			ウルメイワシ	ND			4	
	ムシガレイ	93	ND	9	28			オオクチイシナギ	ND			4	
	ムラソイ	84	37	53	7			カタクチイワシ	ND			9	
	クロダイ	63	ND	38	9			ギス	ND			11	
	アカシタビラメ	59	59	59	1			キチジ	ND			3	
	サメガレイ	57	ND	1	55			コウナゴ	ND			16	
	ケムシカジカ	53	ND	11	41			ゴマサバ	ND			3	
	ショウサイフグ	51	ND	16	6			シラス	ND			59	
	ヤナギムシガレイ	45	ND	3	53			セトヌメリ	ND			1	
	クロウシノシタ	44	44	44	1			ダツ	ND			1	
	マガレイ	42	ND	8	59			チダイ	ND			8	
	アカガレイ	33	ND	3	39			ナガレメイタガレイ	ND			1	
	スケトウダラ	31	ND	2	20			ハマトビウオ	ND			1	
	サヨリ	30	ND	3	12			ヒレグロ	ND			34	
	メイタガレイ	29	ND	9	7			ブリ	ND			4	
	マアナゴ	27	ND	4	40			マアジ	ND			14	
	キアンコウ	26	ND	4	28			マイワシ	ND			28	
	トラフグ	26	26	26	1			マサバ	ND			12	
	カナガシラ	25	ND	3	32			マダイ	ND			3	
	ナガヅカ	20	ND	9	3			マツカワ	ND			1	
	シログチ	14	ND	3	12								

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
イカ類	ジンドウイカ	ND			21	
	スルメイカ(マイカ)	ND			20	
	ドスイカ	ND			1	
	ヤリイカ	ND			14	
タコ類	マダコ	ND			5	
	ミズダコ	ND			32	
	ヤナギダコ	ND			61	
甲殻類	ガザミ	ND			2	
	ケガニ	ND			25	
	ヒラツメガニ	ND			10	

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
貝類	アサリ	24	ND	3	9	
	アワビ	ND			23	
	エゾボラモドキ	ND			10	
	コタマガイ	ND			6	
	シライトマキバイ	ND			12	
	チヂミエゾボラ	ND			1	
	ホッキガイ	ND			10	
その他	キタムラサキウニ	12	ND	2	13	
	オキナマコ	ND			18	
	マナマコ	ND			7	
	マボヤ	ND			2	
海藻類	ヒトエグサ(アオリ)(養殖)	ND			4	

平均値において、NDは0として計算



魚介類のエリア別の検査結果概要 (全魚種 H24.1.1~H25.8.19)

数値は134Csと137Csの合計 平均値においてNDは0として計算

(漁場環境部)